

平成30年度JAIST修了者アンケートの結果（20年版）

1. 調査の概要

① 調査目的：

大学院における教育の成果は修了10年、20年を経てから判明するという認識の基に、修了後10年及び20年を経た修了生から意見を聴取し本学の教育内容・方法の改善に役立てることを目的とする。

② 調査対象：平成9年度修了者258名のうち、所在不明者42名を除く216名
《情報科学研究科および材料科学研究科のみ》

③ 調査内容：

1. 入学時の状況について
2. 現在の勤務先について
3. 大学院の教育方針について
4. 本学での学修成果について
5. 本学の印象について
6. ご意見

④ 調査期間：平成30年12月3日～平成31年1月11日

⑤ 調査方法：

本学が把握済みの現住所又は帰省先へ郵送。

同封の返信用封筒（送料本学負担）で返送又は本学ホームページから回答するよう依頼した。

⑥ 調査数：

発送数 167件（宛先不明返送49件を除く）

回答数 27件（うち郵送10件、ホームページから17件）

回収率 16.2%

<研究科・課程別内訳>

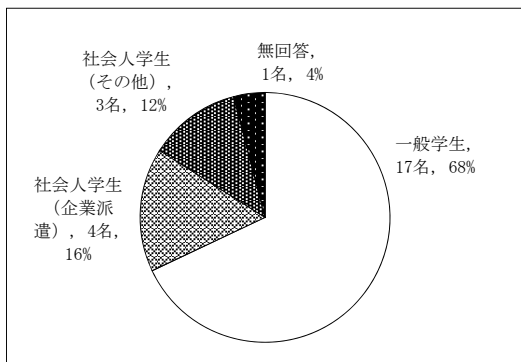
情報科学研究科	博士前期課程	13名／98名	博士後期課程	4名／13名
材料科学研究科	博士前期課程	6名／94名	博士後期課程	2名／11名

※ ホームページから回答した者のうち、2名は回答が不完全であったため、回答数と内訳の人数の合計は一致しない。

2. 調査結果

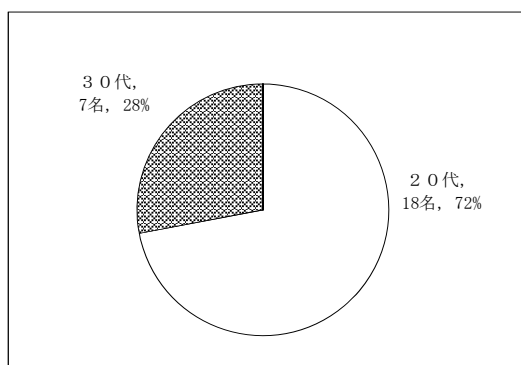
【1. 入学時の状況について】

1-1. 在学区分



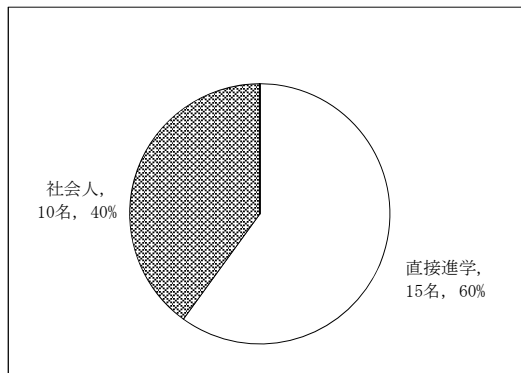
1	一般学生	17名
2	社会人学生 (企業派遣)	4名
3	社会人学生 (その他)	3名
4	外国人留学生	0名
	無回答	1名
	合計	25名

1-2. 入学時年齢



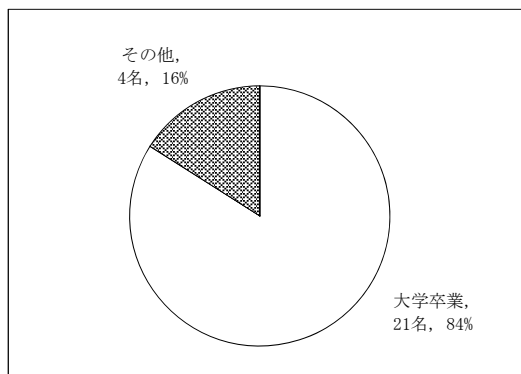
1	20代	18名
2	30代	7名
3	40代	0名
4	50代	0名
5	60代以上	0名
	無回答	0名
	合計	25名

入学時経歴



1	直接進学	15名
2	社会人	10名
3	研究生等	0名
4	無職・その他	0名
	無回答	0名
	合計	25名

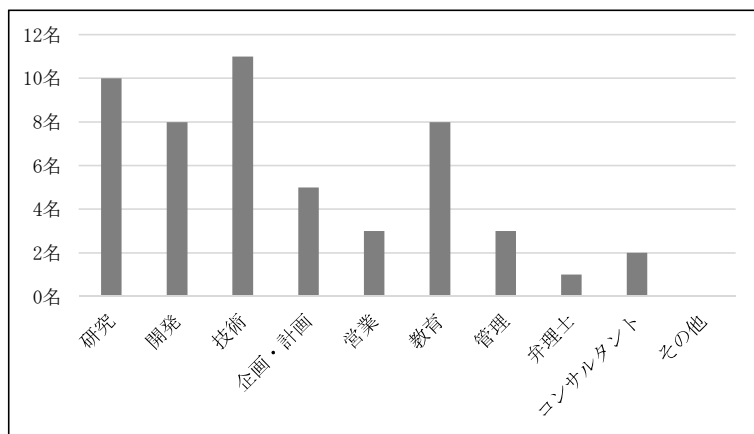
入学時学歴



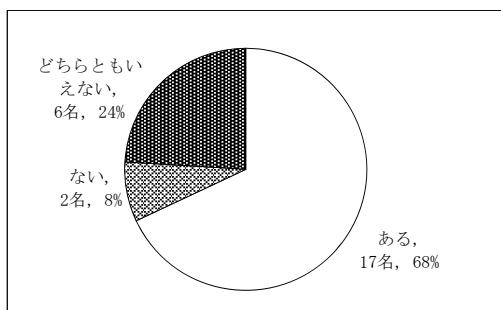
1	大学卒業	21名
2	高専専攻科修了	0名
3	飛び入学／大学退学	0名
4	その他	4名
	無回答	0名
	合計	25名

【2. 現在の勤務先について】

2-2. 現在の部署・職業の性質について（複数回答可）



2-3. 本学における学修内容と現職との関連性について

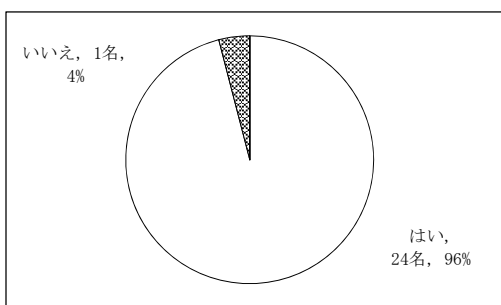


1	ある	17名
2	ない	2名
3	どちらともいえない	6名
	無回答	0名
	合計	25名

【3. 大学院の教育方針について】

3-1. 本学は、幅広い知識を体系的に修得させることを目的とし、大学院教育において以下のような新たな試みに取り組んできましたが、以下の取り組みは、現在のあなたに有益ですか。「いいえ」の場合は、その理由及び有益とするための改善案等がありましたらご記入ください。

・体系的なカリキュラム（講義項目）について

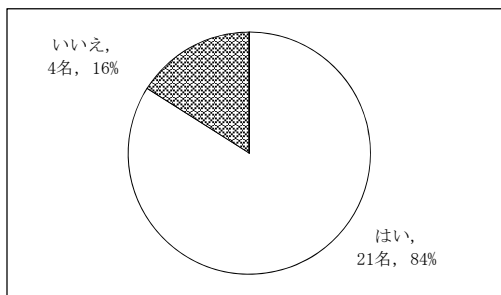


1	はい	24名
2	いいえ	1名
	無回答	0名
	合計	25名

《理由・改善案》

- ・幅広い分野の基礎を学べたため。
- ・基礎学力は不可欠。
- ・それなりに専門性のある周辺知識がついたと思う。
- ・当時受けた講義で学んだことが自身の中にあまり残っていない。

・副テーマ研究について

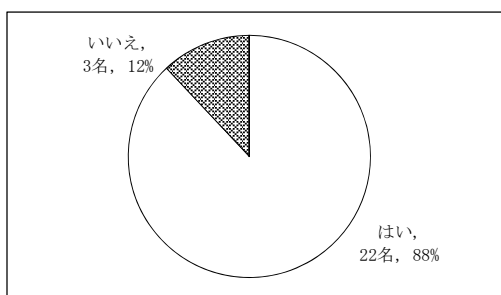


1	はい	21名
2	いいえ	4名
	無回答	0名
	合計	25名

《理由・改善案》

- ・時間が短すぎ、研究にならない。
- ・メインテーマの補助的な内容にしたので、今も関連がある。
- ・主と副ではなく、テーマを2つ選ぶくらいで実施した方が良いように思われる。
- ・2年間という短期の学習期間の中では副テーマは深く掘り下げられないと思います。
- ・中途半端になりがちだから。

・複数教員指導制について

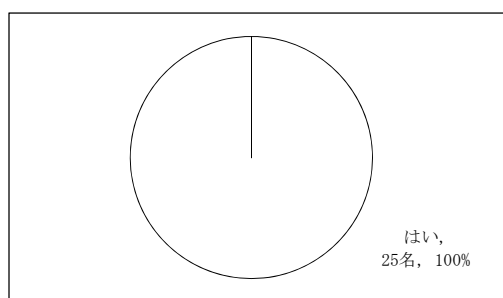


1	はい	22名
2	いいえ	3名
	無回答	0名
	合計	25名

《理由・改善案》

- ・様々な考え方・研究方法に触れる。
- ・複数教員に指導された記憶がない。
- ・組織内での人間関係構築の練習にはなった。
- ・副テーマで行ったことが自身の中に残っていない。
- ・主指導教官以外からアドバイスを貰える機会を多くしたほうが良い。

・修士論文研究・博士論文研究について



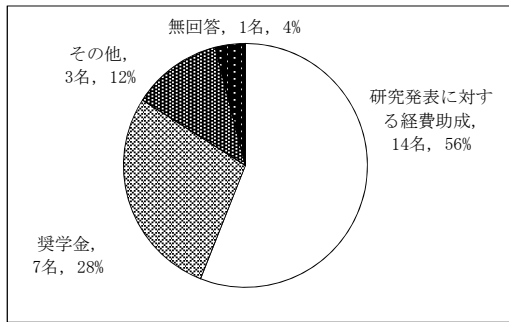
1	はい	25名
2	いいえ	0名
	無回答	0名
	合計	25名

《理由・改善案》

- ・研究者にとって不可欠。
- ・論文のテーマが現職に直接結びついている。

3-2. 大学院教育において最も必要（有効）と思われる制度等について（単数回答）

・ 学生への支援

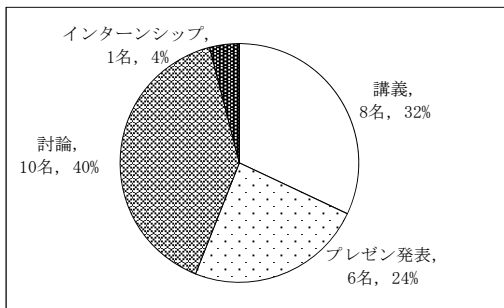


1	研究発表に対する経費助成	14名
2	奨学金	7名
3	その他	3名
	無回答	1名
	合計	25名

《その他の内容》

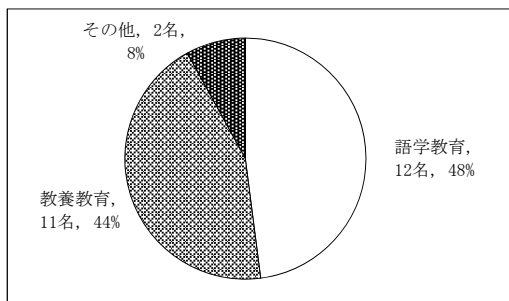
- ・ 学生に直接ふれて、良い点を挙げる（褒める）。
- ・ カウンセラー等、心の支援。
- ・ 寮などの福祉。

・ 授業の形態



1	講義	8名
2	プレゼン発表	6名
3	討論	10名
4	インターンシップ	1名
5	その他	0名
	無回答	0名
	合計	25名

・ 専門以外の教育



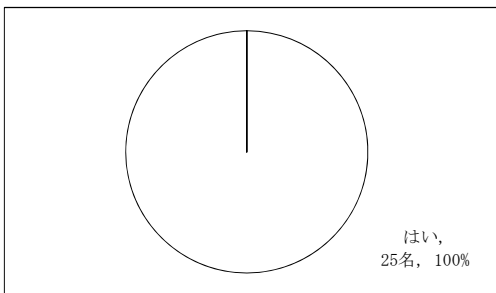
1	語学教育	12名
2	教養教育	11名
3	その他	2名
	無回答	0名
	合計	25名

《その他の内容》

- ・ 専門外専門教育。
- ・ 産業、行政など、社会情勢を学ぶ機会。

【4. 本学での学修成果について】

本学での学修成果は、現在のあなたに有益ですか。



1	はい	25名
2	いいえ	0名
	無回答	0名
	合計	25名

《具体的な理由》

<情報科学研究科>

- ・学修内容というよりは、そこに取り組む先生方や朋輩の姿勢に非常に刺激を受けました。JAISTでの経験は間違いなく社会で活躍するための礎となると思います。
- ・修得知識、技術による、転職の向上。適用業務領域の拡大。
- ・文系出身ながら入学させて頂き、外資系IT企業に入社できたことが、現在でも非常に貴重な経験となっているから。(IT経験、学会での発表、海外研究者との討論などJAISTで学んだ基礎があるから、今の自分があると感謝しています。)
- ・データサイエンス時代の知識キャッチアップの下地を得ることが出来たと考えております。
- ・研究のおもしろさ、厳しさを知ることができた。
- ・学生時代の専攻内容から、研究に対する姿勢まで、全てが今日の職につながっていると思う。
- ・研究者としての基礎を形成する上で有益だった。
- ・博士後期課程修了から20年が経過し、昨年3月末に定年、引き続き再任用で同じ職場で企業支援に携わっています。在学当時の体系的なカリキュラムに基づく講義科目の履修は、社会人のための再教育プログラムとして修了後も役に立ったことを現在でも感じています。また博士論文の内容は、職場に復帰後も関連研究や、企業への技術普及に役立ちました。さらにその後、産学官共同研究事業(文科省)にJAISTの連携体として二度参画する機会を通して貴学の研究シーズを企業へ技術普及することに努めることができたことも学修経験が活かされたものと考えています。
- ・主テーマの指導教員に明確な方針と基準の下で厳格な指導を受けたことが有益でした。
- ・体系的な知識がついて、専門性に自身がついた。
- ・特定の分野の知識というより、自分で選んだテーマについて、自分で調べ、自分なりの答えを出し、発表するという一連の作業の経験が、社会人になってから有益だったと気が付いたため。
- ・情報科学を中心とした学際的かつ体系的な基礎を修得でき、その経験が教育の現場で活用できています。
- ・仕事そのものに密接に関わっていないものの、バックグラウンドとしての学修成果が仕事への自信となっていることは間違いありません。社会人向けのスキル向上と、研究を深めることの両面があることがJAISTの特徴だと考えます。社会人をアカデミックな環境へ浸らせることは大きなメリットがあります。
- ・他系学部からの進学というこもあり、3年掛けて修士を修了しました。精神的もしんどかったという思い出がありますが、なんとか研究室の皆さんに助けられて、修了出来たという事が、大きな自信となっています。広く深く、厳しいカリキュラムを取り組めることは、人生にとっても有益だと思います。
- ・断片的だったり偏っていた知識、技術の全体像を体系的に学べた。問題のとらえ方が広がって、それまでよりも良い設計ができるようになったと思う。

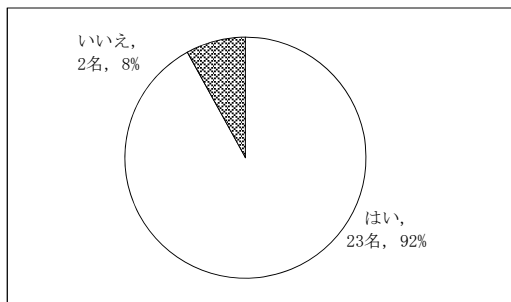
<材料科学研究科>

- ・多様な学生・教授にふれられた。4年制大学では大学の考え方(研究態度や求めるもの)が学んだとおりに均一だったことに気づいた。社会に出る前に個人毎に価値観が異なることを実感できた。また、一分野のみでなく、物理・化学・数学・生物の広い分野の基礎を一通り学べた。学ぶ方法を学んだと思う。学び方を学ぶのは一番有用だったかもしれない。
- ・博士の学位は国際的なビジネス上、不可欠である。また、取得課程で、方法論も学ぶことから、非常に有益である。
- ・企業研究者として15年以上勤める上でのベースとなった。
- ・学んでいた時は単位取得で必死だったが、社会人で様々な経験をしていく時に、あの時の学んだことが、気づきとしてよみがえってくることがある。
- ・修士課程(他大学)で履修できなかった科目を履修できたこと、国外の研究者と交流、ディスカッションできたことなどが現在も有益な成果と考えている。
- ・研究室での学修は負荷が多いと思っていたが、社会人の大変さはその比でなく、課題設定～問題解決のルーティンを数多くこなすことで仕事の処理能力は上がった。
- ・自身の専門分野をさらに広げることが出来たこと。

【5. 本学の印象について】

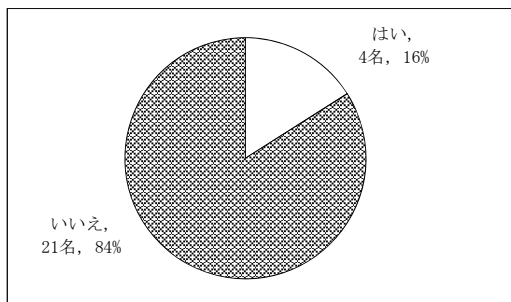
5-1. 外からみた現在の本学の教育面等における印象について、特徴的と思われますか。

・教育における取組（副テーマの実施、複数教員指導体制、クォーター制導入 等）



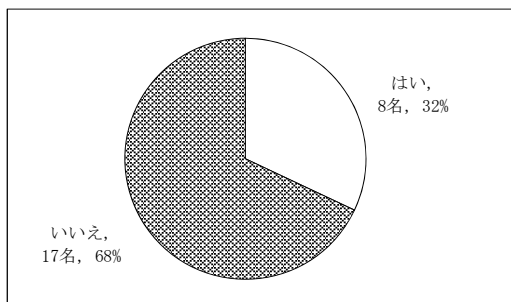
1	はい	23名
2	いいえ	2名
	合計	25名

・経済的支援への取組（奨学金制度、授業料免除、研究留学制度 等）



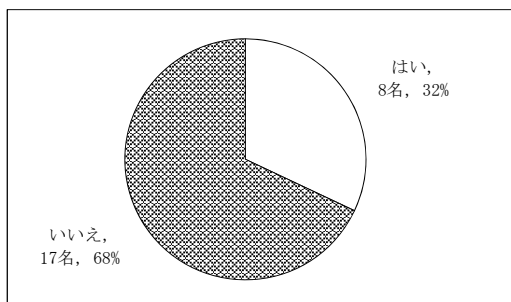
1	はい	4名
2	いいえ	21名
	合計	25名

・国際的な活動への取組（海外大学との協働教育プログラム、世界展開力強化事業 等）



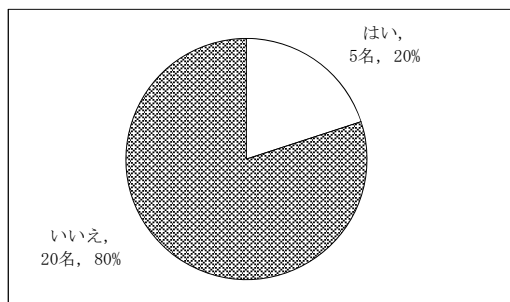
1	はい	8名
2	いいえ	17名
	合計	25名

・外国人教員数・留学生数



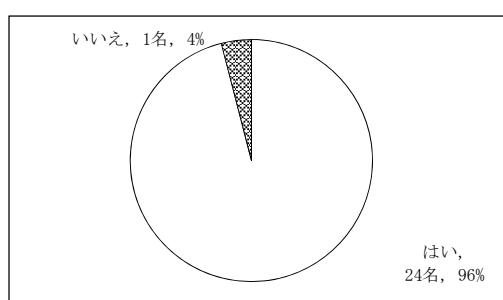
1	はい	8名
2	いいえ	17名
	合計	25名

・大学院大学としての知名度



1	はい	5名
2	いいえ	20名
	合計	25名

5-2. 本学は、現在、「グローバルに活躍できるイノベーション創出人材」を育成することを目指しています。これを実現するために、平成28年4月入学者から、「知識科学的イノベーションデザイン教育」を全学生の必修科目とし、さらに研究留学、国際学会等での研究発表、海外インターンシップなどを学生に推奨しています。このような本学の教育方針は、産業界等が求める人材像に沿っていると思いますか。また、この教育方針についてのご意見、ご提案がありましたらご記入ください。



1	はい	24名
2	いいえ	1名
	無回答	0名
	合計	25名

《意見・提案》

- ・日本が、グローバルで存在価値を高めていく上で、人材育成を重視することは欠かせない。タフなカリキュラムを組んでもらいたい。
- ・教育方針はその通りと思いますが、それらを具体的にどう実装するか次第だと思います。
- ・ご送付頂いた資料に記載されている内容は、産業界が求めている人材の輩出に必要なもので、開学当時から基本方針をベースに進化してきたものと理解しており、一層の充実を期待しています。
- ・ものづくりなどにおいては、最も求められるものは研究活動の十分な経験と新たな分野の学習を自身の力で絶えず行っていく能力だと思うので、従来の研究指導をより徹底して行うことが望ましいと思います。また、企業や研究所などの研究や開発に院生のうちから参加する仕組みがあると、それら2つのことが実感できるのではないかと思います。
- ・博士後期課程の研究力強化についての教育もあるとよい。
- ・人間力や創出力強化の仕組みとして、1~2週間の短期間で過疎の自治体へ赴き、現地自治体での問題点をヒアリング、ITによる速攻解決を行うような実践的研修などをされてはいかがでしょうか。
- ・「たくましさ」という言葉に魅力を感じます。どのように「たくましさ」を育てるかは大学院からでは難しい面もあると思います。

【6. ご意見】

最後に、研究室内教育や今後のJAISTに期待すること等、ご意見がありましたらご記入ください。

<情報科学研究科>

- ・学生に迎合するのではなく、厳しいカリキュラム（留年多数！）を堅持いただき、日本の発展に役立つ有能な人材を続々と輩出いただくことを期待します。
- ・開学期の厳しさと充実感を失うことなく孤高の存在でありつづけて欲しい。
- ・研究室制は個々の教員が自身の特徴をいかした学生指導ができますが、一方で教員に十分な指導力がない場合に大きな問題が生じる可能性があります。教員教育をどうするかが課題ではないでしょうか。
- ・イノベーションは、素人の単なる思いつきではなく、圧倒的な専門知識、経験に裏付けされた上での革新でないと、真の創出にはならないと思います。その両立が出来る人材育成を期待しています。
- ・卒業生として、JAISTの教育や研究に貢献できるような場（機会）を提供してほしいです。
- ・来年度から博士後期課程入学者に対して奨学金制度を設立し、産学連携の更なる促進に取り組みられることで、共同研究プロジェクトの組成や、大学の研究成果を企業へ技術移転する道のりが、より一層円滑に展開していくことを期待しています。またドクター取得やキャリアアップを考えている企業技術者とJAISTの研究者のマッチングの機会をさらに充実させて学生を受け入れることで、これまで整備されてきたフレキシブルな一貫教育システムもより効果的に活用されていくものと思います。私事で恐縮ですが、当時は個人的に研究室を飛び込み訪問し1年間の助走的な共同研究を職場で立案、実施したことで社会人派遣入学に至りました。当時に比べて現在は、諸制度がとても充実しておりますので、例えば後期課程入学希望者や企業を対象とした貴学の研究室めぐりの開催や、入学前の研究室へのインターンシップ研究員の受入れなど、これからも様々な局面で柔軟な展開が図られていくことを期待しています。
- ・研究指導の綿密なシラバスを作成し、教員の学生に対する指導の責任範囲を明確にした方がよいと思います。
- ・3つの領域の融合によるシナジーが素晴らしい人材を生み出すことに期待しています。
- ・学校の知名度という点では20年前とほとんど変わらないのではないのでしょうか。知名度があれば良いというわけでもありませんが、良い人材を集めたり、民間企業と協業する機会を作るためには、そういう面の取り組みも必要かと考えます。
- ・お世話になった事務室の職員の方々を懐かしく思い出します。卒業生だけでなく職員の方の近況なども各種記事で拝見できたらと思います。
- ・他学に比べて先進的、特異な大学であり続けてくれることを望みます。

<材料科学研究科>

- ・全面的に信頼しています。やりたいようにやってみて下さるとうれしい。
- ・社会人の再教育の場として、もっと宣伝すべき。
- ・JAISTのブランドを高めてほしい。
- ・副研究の充実が好ましいと感じる。国際交流(交換留学など)の機会を増やすことができればと期待する。
- ・JAISTでの大変な経験は社会人として役に立つものだと思っています。これからも若い学生をしっかり教育して社会貢献できるよう期待しています。
- ・大学に学部がない国内で数少ない、より研究に集中できる大学院大学の特徴を全面的に出してがんばってほしい。